

編集後記

埼玉県環境科学国際センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報は12年度目に当たる平成23年度の活動を記録したものである。関係諸機関並びに県民にその活動を紹介するための情報源としてだけでなく、機能の一つである環境情報の収集・発信のための媒体でもある。

平成23年度は、埼玉県内の環境問題に精通されている埼玉大学の坂本和彦教授を総長に迎え、新たなスタートを切った。「持続可能な社会」の構築という大きな命題を念頭に置き、埼玉県が直面する環境問題、国際的視点に立った調査研究、環境保全に取り組む県民の方々への支援等について、決意を新たに全力で取り組む所存である。

センターでは、環境に関する試験研究業務を充実し、総合的・学際的研究を推進するため、積極的に外部資金の獲得を図ってきた。平成23年度は他機関との共同研究も含めて35件(対前年度14件増)の外部研究費を獲得し、業務に反映させた。今後も外部資金制度を活用し、環境保全事業の推進に貢献していきたい。

今回の環境科学国際センター報は、国際学会における研究発表概要を充実させた。センターにおける国際学会発表は年々増加しており、平成23年度は30件を数えた。グローバル化が進む環境問題に対し、国内だけでなく国際的にも認められる研究を今後も発信していく必要がある。また、国、地方自治体の委員会等の委員に係るセンター職員の委嘱状況を記載し、埼玉県内にとどまらず、国、地方等の環境行政に対しても、これまでに培った知識、技能等が存分に活用されていることを示した。

本報は、印刷原稿の作成までを全員参加により行ったものであるが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負った。

平成24年6月

編集委員一同

〈編集委員会〉

木幡邦男(研究所長)	石崎秀夫(事務局)
千葉紗紀子(研究企画室)	竹内庸夫(研究推進室)
倉田泰人(研究推進室)	嶋田知英(温暖化対策担当)
茂木 守(化学物質担当)	高橋基之(水環境担当)
白石英孝(土壌・地下水・地盤担当)	